

書簡一通

内申付於一昨亦七百五  
二重文字卒業証書を授  
ぶ武之家同字帰病  
生徒之三百人計を武  
坊生席を爲す他ハ  
居止沈酔之其夕  
五所迄ナリ御来宿舎  
ノランプを打消之處ニ  
石を投じ或ハ板壁を破  
壊之風妨を極メ  
超ハ大文字幾程始メ者  
頼朝言計之亦一時  
教多老筆ニ指起  
制止爲可休之旨

教多若老軍之指起

制止爲計休否追

了波言者命者破既成

上言者勢りよふ事勿

備教者言備亦印

分一統。後悔謝罪

六尸出之者却之玉得

者者自行者老むる事

事。至がごとく出下ふ

残一平。放逐の事

をよぶ事成るべく事

をふち。又。良校良令

一處分者休す事

儀。た。た。た。た。中

事。事。事。事。事

一處分は付て  
儀にたゞし  
考ふる間も  
然るに  
於て  
亦  
堀南を新  
不平を起  
武令  
動  
尤或  
密  
心  
實  
處

実の事と云ふに、移居する  
處を以て之を必す其色  
を動かし以て之の如く  
と書かざるべし、力得た處  
分、控へ、決る是を以て  
ふ者、捕道、一平、移居  
を以て、後、之の如く、  
於處、一、海、置、且、  
之、及、し、止、委、信、之、儀  
を、追、大、学、總、理、院、の、業、  
申、之、之、文、に、内、申、の、  
と、書、か、る、也

十月十日

文部省 福岡 爲吉

此處即瀨田直之傳  
多處以上委從之儀  
也  
追々大學總理之業  
申之文之内申之儀  
とあり也

十月十日

文部省福岡支局

長官殿へ  
敬啓

貴局より申渡しの件  
全情を以て承知せし  
川本支書迄内申せし  
事とあり  
とあり

客月二十七日東京大学にて法生事務所にて  
付不取教一應申上置り迄迄、市岡の如く  
分方、次第に有之、又内申、及候者、常朝満  
生兵目暮山、年、兼テ中密ノ申合ニ  
波レ居リ振午後四時半、以  
一同解帰中ニハ大磁石、者ニ有ク下駄ノマ、ニテ  
殿下ヲ馳セ杖ヲハテランゾヲ壞リ夫レヨリ儀或宴  
會ニ入リ酒ナト奪ニ返リ、此ノ暴行、多クアリ夜  
入リ齋ノ寄宿、毎歸法家ニ會衣堂等、狂藉  
ニカラス一ヲハ散ク打破リ寄宿舎用心ノ為、ニ殿堂

致し置タル極端ヲ殊ニ甚致破壊シ注、石或ハ棒  
以テ寄宿舎細方糸及液リ廊下左右ノ羽目ホラ破  
リ或ハ門番所ヲ毀リ表門ノランプヲ打落シ殆ント  
火災ヲ生セントセシモ幸ニ此ニ至ラズシテ止ル登時学  
中総理幹事部長その他僅カナル人数ニカク之暴行  
諸生衆多ノ義一時蜂起ノ勢ニテ支ハ兼ツ場合  
駭投ノ外ニ減レ警部出査ホ移後方中來リ夕  
ル致ニ以テ其力ヲ借ラスレテ漸ク十一時此迄定ニ  
帰シ候其原因ニ至リテハ種々風潮モ有之ツ其取  
ルニ足ラザル節モ有之但大要者恐以知ハ近來墮

致シ置タル極端ヲ殊ニ甚致破壊シ注、石或ハ棒  
以テ寄宿舎細方糸及液リ廊下左右ノ羽目ホラ破  
リ或ハ門番所ヲ毀リ表門ノランプヲ打落シ殆ント  
火災ヲ生セントセシモ幸ニ此ニ至ラズシテ止ル登時学  
中総理幹事部長その他僅カナル人数ニカク之暴行  
諸生衆多ノ義一時蜂起ノ勢ニテ支ハ兼ツ場合  
駭投ノ外ニ減レ警部出査ホ移後方中來リ夕  
ル致ニ以テ其力ヲ借ラスレテ漸ク十一時此迄定ニ  
帰シ候其原因ニ至リテハ種々風潮モ有之ツ其取  
ルニ足ラザル節モ有之但大要者恐以知ハ近來墮  
トシ又ハ筒ニ卒業後直ニ学士ノ稱ヲ与フルノ體  
當ナラサルヲ以テ改メテ得業士トセシテ自己向來  
ノ直ニニ学士トナルヲ得サルヲ以テ不平トシ就テハ今  
日ノ新学士ヲ必ニ却テ各氣急カトナシ  
或ハ賄方金事等ニ於ケルノ不平ニ出テ或ハ後輩卒  
業或場夜ヲ以テセシテ今回改メテ書トナスヨリ多少  
ノ自由ヲ失セシテ不快ナリトシ又一ニハ改進黨早稲  
田専門學校ノ手ヨリ陰ニ之ヲ教唆セシニ由ルトシ  
確知ス可カラス以上預末ノ事ニ過キサルモ到底此他ニ



ハ出テサルハニ扱翌日ニ至リ総理行事其他ヲ取  
 調ニカリリツル何分原因等不申立固リ主謀者  
 ヲモ自白セス唯一回結合酒席ニ衆セシトノ申張  
 候然ルニ諸生右等ノ暴行ヲ為スニ至テハ容易ノ  
 件ニテモ多之萬一寛假ニ付スルカ如キアテハ独リ大  
 学内部ノミナラス他ノ諸学校地方ノモ影響不可少  
 ニ付若重雷分可致且一日モ速テハ要スル義ハ勿論  
 候ノ共右暴行ニ至ルノ企テニ於テ首逆重軽ノ別  
 アルハ自ラ相見候ニ付卑ニ共犯ヲ以テ處シ難キ  
 旨ヲモ当該者申立ハ間一ニ審問ヲ遂ケ首逆ヲ亂シ

處分スル事ニ致シ候就テハ二百六七十人ノ多キ不得  
 已シテ稍日子ヲ費ヤサハルヲ得ス即チ本學ニ於テ  
 審問申出ント徹夜ニ及ヒ居候者ノ次第ニ候ト共  
 今ニ至日ヲ出テス完結スル其の上達ニ若重ノ如分  
 可為被見止候ト暴行ノ徒ハ法理文ニ學部及  
 其餘備前ノ寄留生ニシテ就中理學部ハ宜少ナリ  
 他ノ醫學部ニ於テハ本科豫科トモ絶ニ多之候尤多  
 クハ學力ノ中等ニ居ルモノニテ有之候此段更ニ内申  
 候也

明治十二年十一月一日 文部卿 福岡春弟

三條右大臣殿

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

東京大學生徒暴動  
儀旨列府文部卿  
内申書付回算申上

明治十六年十月六日  
内閣書記官

太政大臣三條實美殿

文庫書目録

明治十六年十一月六日 内閣書記官

太政大臣三條實美殿

左大臣熾仁親王殿

右大臣大木喬任殿

参議山縣有朋殿

参議伊藤博文殿

参議西郷従道殿

参議井上馨殿

参議山田顯義殿

参議松方正義殿

参議大山巖殿

参議川村純義殿

参議福岡孝弟殿

参議佐木高行殿

太政大臣三條實美殿

左大臣熾仁親王殿

右大臣大木喬任殿

左大臣山縣有朋殿

右大臣伊藤博文殿

左大臣西郷從道殿

右大臣井上馨殿

癸月二十七日大學ニ於テ諸生暴行ノ義勇者  
舉動ニ妙未并審分方等再德内申ニ及置ル  
而兼夫ニ審判ヲ遂ケ先ニ學生ニ徒百四十  
五名同時ニ退學申付候故テ學務理加藤弘  
之丞出ル  
此此段方又内申候也  
明治十六年十一月五日

多都御福岡孝弟

三條實美大臣殿

敬  
附  
書

多記御上申大  
學生徒暴行  
辱申年々  
回後迄

明治六年十月五日 内閣書記官

太政大臣三條實美殿

左大臣岩倉具成殿

右大臣大木喬任殿

左大臣山縣有朋殿

右大臣伊藤博文殿

左大臣西郷從道殿

右大臣井上馨殿

左大臣山田顯義殿

右大臣松方正義殿

左大臣大山巖殿

右大臣川村純義殿

左大臣

# 回後免

明治六年十月五日 内閣書記官

大政大臣三條實美殿

左大臣熾仁親王殿

右大臣大木喬任殿

参議山縣有朋殿

参議伊藤博文殿

参議西郷從道殿

参議井上馨殿

参議山田顯義殿

参議松方正義殿

参議大山巖殿

参議川村純義殿

参議福岡孝弟殿

参議佐木高行殿

東京大學學生生徒暴行ノ始末及其處分方ニ  
付テハ本月一日附ヲ以テ内申致シ尚同月五日附  
ヲ以テ右學生生徒徒百四拾餘名ハ東京大學ニ  
於テ退學申付候旨内申ニ及置候儀ニ有之候  
ルニ右退學ヲ命ニ候學生生徒中ニモ猶具所行ノ  
輕重或ハ首從ノ差別モ可有之存候ニ付精密查  
了ノ上其重キ者ヲ以テ更ニ本月二日附當省第十  
八號達ニ掲クル所ヲ適用處分致シ候見込ニテ  
百方考查為致候得共其事タル素ヨリ有心熟  
計ノ所行ニテハ無之全ク一時暴發ノ舉動ニ属シ  
判然首謀者ト認ム可キ程ノ者モ無之遂ニ其輕重

東京大學學生生徒暴行ノ始末及其處分方ニ  
付テハ本月一日附ヲ以テ内申致シ尚同月五日附  
ヲ以テ右學生生徒徒百四拾餘名ハ東京大學ニ  
於テ退學申付候旨内申ニ及置候儀ニ有之候  
ルニ右退學ヲ命ニ候學生生徒中ニモ猶具所行ノ  
輕重或ハ首從ノ差別モ可有之存候ニ付精密查  
了ノ上其重キ者ヲ以テ更ニ本月二日附當省第十  
八號達ニ掲クル所ヲ適用處分致シ候見込ニテ  
百方考查為致候得共其事タル素ヨリ有心熟  
計ノ所行ニテハ無之全ク一時暴發ノ舉動ニ属シ  
判然首謀者ト認ム可キ程ノ者モ無之遂ニ其輕重

東京大學學生生徒暴行ノ始末及其處分方ニ  
付テハ本月一日附ヲ以テ内申致シ尚同月五日附  
ヲ以テ右學生生徒徒百四拾餘名ハ東京大學ニ  
於テ退學申付候旨内申ニ及置候儀ニ有之候  
ルニ右退學ヲ命ニ候學生生徒中ニモ猶具所行ノ  
輕重或ハ首從ノ差別モ可有之存候ニ付精密查  
了ノ上其重キ者ヲ以テ更ニ本月二日附當省第十  
八號達ニ掲クル所ヲ適用處分致シ候見込ニテ  
百方考查為致候得共其事タル素ヨリ有心熟  
計ノ所行ニテハ無之全ク一時暴發ノ舉動ニ属シ  
判然首謀者ト認ム可キ程ノ者モ無之遂ニ其輕重

ヲ分別候儀ハ難相成有様ニ有之就テハ已ムヲ  
得ス其首後ヲモ論セス一切ノ處分致シ候ヨリ外  
手段モ無之尤一切ノ處分致シ候上ハ寧ロ輕キニ  
從テ之ヲ處断スルモ可然儀ニ候得共凡ソ事一時  
ニ偏シ目前ノ得失ノミヲ以テ決ス可ラサルハ論ヲ  
竝タス必スヤ前後ノ影響如何ニ留意セザル可  
ラサル儀ニ有之今若シ第十八號達ノ如キ嚴肅ノ  
處分ヲ致サスシテ之ヲ措ク時ハ其影響他ノ官公  
私立一般ノ學校ニ波及シ所謂一大吠虛萬犬  
吠聲ノ狀況ニ可相成哉ノ掛念モ有之果シテ如此  
相成候ハ、自今全國ノ學校ニ於テ或ハ其生徒  
ヲ檢束シ能ハサルニ馴致スルノ恐レモ有之故寧ロ  
重ク之ヲ處断シテ嚴シク懲戒ヲ加ヘ候得ハ却テ

將來ノ好果トモ可相成存候ニ付一切ニ其重キニ  
從テ當省第十八號達ニ照シ今般退學ヲ命セシ  
學生生徒ハ當省直轄官立學校及府縣公私立  
ノ學校ニ入學スルヲ禁シ候尤該學學生生徒  
今般ノ舉動タル容易之儀ニ無之ハ勿論ニ候得共  
畢竟ハ一時ノ密氣ニ乘シ候モノニシテ固ヨリ深ク  
邪慝ノ意ニ起リ候情狀ニハ無之候間右處分ノ  
後ハ尚篤ト其舉止ヲ探查候上他日深シテ謹慎  
悔悟ノ實效有之ト認メ候者ハ或ハ再入學ヲ  
許シ候儀モ可有之様致シ候見込ニ有之候右  
退學生生徒一切ニ入學禁止ヲ命シ候次第ヲ具  
シ猶又及内稟候也

明治十六年十一月十三日 文部卿 福岡孝弟



太政大臣三條實美殿

[Large empty rectangular frame with vertical lines, likely a placeholder for a seal or stamp]

文部卿内申

東京大学と生徒徒

長官様へ

書付回覧申上

十一月廿四日

西宮市立第一中学校

校長 山本 敏

吉田四郎氏宛

十二月廿四日

由了斎藤氏書

月島大少殿

岸大少殿

山本大少殿

山本大少殿

伊藤大少殿

西郷大少殿

井上大少殿

山田大少殿

杉子大少殿

大石大少殿

川村大少殿

市川大少殿

太政大臣三條實義

Blank area with faint bleed-through text from the reverse side of the page.

曩：東京大學：生、徒暴行之者處分儀  
及内稟置候以來該件：聞レテ、最早内申  
候程之儀、之候得共該學文學部准助教  
授有賀長雄儀、右暴行前學生、徒教導  
上不可然儀說示政居有之、都合之次  
第、其處懲戒令、據リ免職可致程之過失  
、認メ不申候旨、右、去ル二十日旨、諭レ解  
職為込候且又東京大學教授兼埋學部長菊池  
大藤儀、平常該學生、徒、對レテ、故意、出  
候儀、之候得共其說示中聊カ失語有之自  
然右心得違テ助成セシ、安、陷リ候間職務上  
不注意、次第、以テ、今回別紙之通、謹責